

なぜいま大学院改革か

総合科学部
基礎科学研究講座

江口正晃

広島大学に 何が起きつつあるか

この数年来、大学院のなかった大学に次々と修士課程や博士課程が作られ、また一方で、いわゆる大学（大学院）設置基準の大綱化を受けて、旧帝大では、教養部の廃止とあいまった形で大学院の重点化や改革が次々と行われてきています。その影響もあって、広島大学では理工学関係の大学院で、受験者数や質に大きな変化が起きつつあります。実際、入学試験で上位の成績をとった受験生が、改革の進んだそれらの大きな大学の大学院に流れ出ていくという現象が、現在特徴的に起きています。設置基準の改正は、大学間の厳しい（自由）競争の時代をもたらし、すでにその影響が始めています。

博士課程を持つ国立大学で 区分化が進行中

文部省や大学審議会などの関係者達の発言から、今後、大学院博士課程を有する大学を、さらに大学院重点大学とそれ以外のものに分けようとしていることがうかがわれます。前者には、教育研究のための先端設備などを積

極的に整備して、研究と研究者の育成に重点をおく機関とする方針です。これらの大学では、研究・教育のスタッフが広い分野にわたって充実し、新しい時代の変化やニーズに対応し得る態勢を持った大学院組織となります。教育・研究環境改善の結果として、ますます優秀なスタッフや質のよい学生達が集まってくる、区分化の傾向は一層進むこととなるでしょう。

では、なぜ大学の区分化が進められる必要があるのでしょうか。御承知のように、今後、学生人口の減少と大学（大学院）の大衆化が進みます。このことによって、全ての大学を研究者育成機関として位置づけることはできなくなるとともに、その必要もなくなります。そして、大学院ですら、高級技術者養成機関・生涯教育機関としての機能がその主な目的となるようになってきます。そのような大学では、教育をしっかりとやらせてもらえば良いというわけでは、研究および研究者育成機関としての機能は、少数の重点大学に委ね、施設・予算等の研究環境の整備充実もそこに重点配分しようとしています。現在景気の状態も非常に悪く、今後も文教予算の増加拡大が望めない状況が続きます。このような背景のもとに、研究水準の維持発展を図るための策として、

重点的に充実させるべき大学と、そうでない大学の区分が行われつつあるのです。このような、大学をとりまく状況の大きな変化や、大学審議会の答申以後大学が迎えている一大転機に目を向けず、それを傍観するならば、区分化のなかで広島大学が落ちこぼれ、研究条件の整備も滞り、結果として、優秀な研究者をスタッフとして迎えることは、今以上に困難となります。またその結果、良くてできる学生は、みな上位大学あるいは改革の進んだ大学院へ行ってしまう、研究者の育成ができなくなるでしょう。改革をしない限り、必ずジリ貧になるだろうと思います。

大学院改革の方向

新しい大学院構想は、大学全体としてのものであることを求められており、一学部だけで新構想を打ち出すということでは、抜本的大学院改革を求めめる文部省を説得することはできません。残念ながら、広島大学は全学的視点での大学院構想を作ることなく、それぞれの研究科や部局毎に独自に案を作り、今度自分達の順番であると主張したり、あるいは相手の提案の足を引っ張り張ったりしてきました。よくよく広島大学の現状を見ると、似たような研究者の集団があちこちの研究科に分散し、当然のことながら、それぞれの研究科で似たような講義や研究が行われています。大学全体としては、非常に効率の悪い状態になっており、とても「大学評価」には耐えられなくなっています。

他大学の例をとると、数学の分野で東大や九大が一本化した新しい研究科を作ること

成功しています。しかし、理系全般にわたって再編成をするという、大がかりで抜本的改革案を作って実行に移そうとしているところはまだありません。理系の研究科全体が、部局のエゴを捨てて再編成を行おうという、今回の改革案が実行に移されるならば、いうまでもなく今後の大きな発展が期待できます。

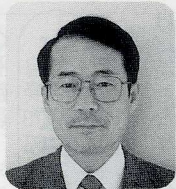
時期的な問題も重要です。文部省側は十八才人口の動態を踏まえて、「今後大学院の充実を中心と考えていく方針である。大学院について新しい良いアイデアがあれば積極的に取り上げる。しかし、他大学の物まねは困る」と言っています。ある国立大学が似たような計画を練っているとも伝え聞いていますが、とにかく、私たちの計画を早く実行案にする必要があります。今の時期を失したら、主体的な改革による重点大学への門戸は、もはや開かれないうという政治的情勢も十分見えておかなければなりません。

私達自身の問題としてだけではなく、我々の後に続く世代の研究者たちのためにも十分考慮し、行動を起こさなければならぬのではないのでしょうか。今行われようとしている改革の具体化には、多くの困難が待ち受けているに違いありませんが、智恵を出し合っていたきたいと思います。

プロフィール

(えぐち・まさあき)

- ◆ 専門は等質空間上の調和解析
- ◆ 評議員
- ◆ 専門委員会委員



◆ 専門委員会委員